

信州自然留学ガイドライン【安全・安心編】

団体名：特定非営利活動法人フリーキッズ・ヴィレッジ

■：該当する □：該当しない (－)：対象外

分類	確認リスト	ホームステイ型	補足事項
受入団体	1 公に認められた団体である	■	
	2 特定の宗教と深く関わりはない団体である	■	
	3 山村留学の目的を文章化している	■	
	4 責任者は明確になっている	■	
	5 受入団体の方針は多くの方が関わって決めている	■	
	6 連絡相談窓口は設置されている	■	
	7 ホームページ等で様々な情報を公開している	■	
	8 山村留学に係る費用は明確になっている	■	
運営状況	1 留学前の体験留学を行っている	■	
	2 施設がある場合、山村留学の専用施設として使用している	(－)	
	3 保護者が山村留学地を訪れる機会は学期に一度程度ある	■	
	4 留学に関わる情報は、施設や学校、行政等で共有されている	■	
指導員	1 専従の指導員が配置されている	(－)	
	2 複数の指導員が山村留学に関わっている	(－)	
	3 概ね留学生6人に対して1人以上の指導員配置になっている	(－)	
	4 山村留学指導員として少なくとも3年程度の職歴がある人がいる	(－)	
	5 男女比を考慮した男性及び女性指導員の配置になっている	(－)	
	6 留学を決める前に、指導員と懇談する機会が設けられている	(－)	
	7 指導員の言動や行動は、子どものお手本となるよう意識している	(－)	
	8 活動を実施するための知識や技術の定期的な研修を行っている	(－)	
受入家庭・地域	1 経験豊富な受入家庭がある	■	
	2 受入家庭は、地域に根付いている人である	■	
	3 受入家庭では、栄養面を考慮した食事が提供されている	■	
	4 受入家庭では、テレビや漫画を見ることに一定のルールがある	■	
	5 受入家庭では、山村留学生が家族の一員になっている	■	
	6 地域の行政組織の中に山村留学の担当者がある	□	
安全管理	1 留学前に医療機関・体制に係る説明がされている	■	
	2 山村留学施設にはAEDが設置されている	(－)	
	3 救急法を受講したスタッフが配置されている	(－)	
	4 定期的に避難訓練が実施されている	(－)	
	5 山村留学施設には火災報知器等の予防設備が整っている	(－)	
	6 下見や危険予知等が含まれた活動指導書が作成されている	(－)	
	7 食事提供における衛生管理が行われている	■	
	8 生活スペースは男女の区分けがされている	■	
	9 緊急時に対応できる連絡体制が構築されている	■	
	10 山村留学中は傷害保険に加入している	■	
暮らし	1 留学前に山村の暮らしについて説明を受ける機会がある	■	
	2 留学生同士で交流する機会が設けられている	□	
	3 留学生が地域住民と交流する機会が設けられている	■	
学校	1 学校と指導員や受入家庭で情報を共有する連絡会がある	□	必要に応じて、学校や保護者と連携を取って動いてします。
	2 山村留学の窓口となる担当教職員がいる	□	
	3 留学決定前に教職員と懇談する機会が設けられている	■	
	4 山村留学生の保護者が学校行事に参加する機会がある	■	
	5 教職員は山村留学を理解し支援している	■	
	6 地元PTAは山村留学を理解し支援している	■	
体験活動	1 年間の活動が分かるものを作成されている	■	
	2 起床や消灯など、決められた規則正しい生活をしている	■	